

平成 28 年度 第 2 回苫小牧市男女平等参画審議会会議録（概要）

- 1 日 時 平成 29 年 2 月 14 日（火） 13：30～15：00
- 2 場 所 市民活動センター 4 階 講習室 A
- 3 出席者 審議会委員 9 名（欠席者 1 名）
市民生活部（部長、次長、男女平等参画課長、課長補佐、主査、主事、
嘱託事務員 計 7 名）
- 4 傍聴人 なし
- 5 記 者 苫小牧民報社
- 6 議事概要

（議題 1） 平成 27 年度男女平等参画に関する市民意識調査報告について

意 見

30 ページ問 16 の「女性が仕事をもち続けていく上で、障害になると思われることについて、男女ともに数字が多いところを押さえて解説していたが、私は、数字としては少ないけれど男女ともに「女性自身の職業に対する自覚が不足している」と回答していることが気になった。これは否定してはいけないことで、こういう意識があるということは覚えていなければならないことだ。職場や会議の場で役職に推されても、女性は教育の面でそういう訓練を受ける時間が無かったため、自信の無さから前に出ることが出来ない人もいる。

たとえば、雇用機会均等法の時も、やはり自信の無い人は、私たちはまだまだだから、やりたい人がやればよいというように、女性の中でも足並みが揃わなかった。これは、否定ということではなく、まだまだそういう人たちがいるということで、私たち自身が肝に銘じておかなければならないと思う。

意 見

全体的に見て、年齢が上がるほど性別役割分担の固定観念が強いことがわかる。男性も女性も 60 代 70 代になると特にそのような傾向が見られる。若い人たちは、男女平等に関してわりと新しい考えや意識をもっていて、性別的役割にこだわっていないようだが、現実的には、会社や企業といった雇う側の意識が、依然まったくその意

識に追いついていない。そのため、せっかく若い世代の人たちが、男女平等でお互いを尊重し協力し合っていこうと思っても、社会に出たら古い意識に絡め取られて、その企業理念などに抑圧され、抗うことが出来ないまま年を重ねることで、結局また今と同じような結果になってしまう。このままでは、若い世代と上の世代との乖離はずっと続いていく。やはり企業や職場の意識改革は大事だし、教育の現場でも小さい頃から男女平等の意識を教えていくことが必要だと強く感じた。

<委員質問>

この市民意識調査の報告書を見ると、調査されたことが様々なデータになっているようだが、これが第3次の基本計画の策定に反映されるという理解でよいのか。

<事務局回答>

今回の調査については、第2次計画の検証と第3次計画への反映と考えている。

<委員質問>

どのように計画に生かされていくのか。たとえば、調査結果にこのような事があったから、それを3次計画でこのように反映した、といった目安となるデータのようなものは示されるのか。

<事務局回答>

今回の調査で設問を考えると、時代反映あるいは国の計画、北海道の計画、国が推し進めているところなどを照査し、以前は無かったセクシャルマイノリティについての設問などを増やしている。あるいは、昨年4月から施行された女性活躍推進法の行動計画を兼ねる目的から、女性の就業についての設問も多くしている。

またDV防止法についても次期計画から盛り込みたいと考えているので、アンケート調査の設定のときからそのあたりを見込んで設問数を多くしており、調査結果もある程度見込みどおりの数字を得られたと思う。個別にこの調査結果はこの部分に該当するというように、すべて当てはめては示せないが、これらに基づいて次期計画に反映させたいと考えている。

(議題2) 平成28年度男女平等参画に関する市民意識調査報告(小学生～大学生)について

意見

最初の市民意識調査の結果と比較すると、ジェンダーやワークライフバランスといった男女平等参画に関する言葉を知っていると回答した比率が高く、若い世代に浸透していることがわかって嬉しく思う。

14ページの「学級委員長、生徒会長は男子・女子どちらに向いていると思うか」という設問の回答について、「どちらともいえない」の割合が多くなっているが、この結果が、実際に学校の現場をどのように反映しているのかと気になった。

私事だが、20年ほど前、娘が小学校の児童会長に立候補しようとした際に、先生からそれは男の子になるものだからと言われ、泣いて帰ってきたことがあった。さらに中学校でも同じようなことがあり、彼女は、自分は書記長に就いて、使える男の子を頭に据えて傀儡政権をやればいと学んだ、といったことがあった。

そんなふうに、大人が学校の中で、男子はこうだ女子はこうだと決め付けて、部活でもリーダーは男の子というように刷り込まれていくことも現実にはあって、出ようとする杭を打つような風潮があることが、女性が表に立っていく自信を失わせているように思う。女性に成功体験やチャンスを与えないことが、女性が自ら手を挙げる機会を失わせているのではないかと思う。

意見

いまのような話は、現状では学校で行われていないと思う。女子も自由に立候補しているし、昔とはずいぶんと変わってきている。

意見

調査では「女子に向いていると思う」となっているが、実際にチャンスが与えられなければ結果として変わらない。これが希望なのか実態なのか、数字で根拠を示して欲しかった。

意見

実際にそういった男女の差が無いから、こういう回答の割合になっているのではないか。私は、これがそのまま実態なのだとして解釈している。学校の今の状況では、女子も活発に手を挙げていて聞いているし、むしろ女子の方が元気なくらいだと聞いて

いる。

<事務局回答>

教育委員会に問い合わせたところ、そういった調査は行っておらず、実際に示せる数字は無いということだった。

今回のアンケート調査を実施するにあたり、教育委員会や学校関係者に話を伺ったところ、学校現場での男女は平等で、逆に小学生のうちには性差というより発達差ということで、女の子のほうが早いのではないかということだった。実数字は揃んでいないが、調査結果は実態だという捉え方をしている。

(議題3) 苫小牧市男女平等参画基本計画(第3次)の策定方針について

(議題4) 苫小牧市男女平等参画基本計画(第3次)策定のスケジュール(案)について

意見

10年計画としているが、中間で見直しをするということなので安心した。これまでの10年でも、社会の動き、国の動きが変わったりして、現状とずれているものがたくさん出てきている。計画と内容が比例していかなければ結局遅れていって意味が無いので、10年計画だからと言ってそのまま流れていくのではなく、状況の変化に合わせてたものにしていくようによろしくお願ひしたい。

<委員質問>

パブリックコメントとは、どのように行うのか。

<事務局回答>

一般的には各公共施設等に配布し、ホームページといった媒体を使って皆さんに周知していくが、何かほかにも周知する方法があったら積極的に活用していきたい。出来るだけの手段を使いながら幅広く意見を求めたいと思っている。

意見

調査結果から、若年層に男女平等参画の意識が浸透していることが見て取れるので、推進してきた者として嬉しく思う。一方で、企業などを含め、市民意識はまだまだ低

く、浸透していないことが結果に表れている。設問の部分は、男女平等参画社会を推進する上での課題なので、これから作る計画の中でしっかり啓発していくことが必要だ。そういった意味も含め、今回の調査結果からは今の苫小牧の実態が見えてくるので、良い調査を実施したと思う。

意見

若年層の調査結果の中で、中高校生のデートDVに対する認識が高まっている。授業を実施している先生方の努力などもあって効果が表れているのだろう。「寝た子を起こすな」と言われた時代から考えると随分進歩したものだと嬉しく思う。

意見

企業意識の実態は、調査結果からもわかるようにかなり深刻な状況だと思っている。実際に現場にいても、女性は男性の何倍も働いてようやく対等になるのが現状だ。それは企業の大きい小さいに関わり無く、まだまだ根付いている状況だと思う。

だから、子どもたちに調査すると平等意識が浸透しているのに、大人との意識に差があるという結果を見るとものすごい遅れを感じる。意識を変えてからやりましょうなどとのんびりしている状況ではない。意識を変えてからなんてきれい事を言っているのは、私が生きている間に変わるのかどうか。それくらいゆっくりとしか進んでいかない。対策をしっかり考えて次の計画を立てて行って欲しいと思う。

意見

企業の場合は、トップの考えが変わらなければなかなか難しいというのが現状だが、昔に比べたら進んだ考えの会社が増えてきているように思う。

意見

実際に現場では、やらなければならないからやっているという感じで、意識があつてやっているのとは違う。それでも、しなければならないと思っているだけまだいい方だが、進み方は本当にゆっくりだ。

意見

制度は取り入れるが、運用面については別。実際に機能しているかどうかについて関心が薄いことも問題だと思う。

意見

企業に行ったのは実態調査なので、いろいろな問題が浮かび上がってくるが、今回は意識調査ということで、実態よりもオブラートに包んだ意見になっているのではないかと。本当は、市民に対しても実態調査をやったほうが良いと思う。現実に行うとなると、踏み込み方の問題など手順が難しくなり、手間隙が掛かるとは思うが、3次計画に盛り込むことも考えてみてはどうかと思う。

<委員質問>

パブリックコメントについて、募集から計画の完成までの期間が短いように思うが、集まった意見の中に、計画に取り入れた方が良いと思われるものがあった場合、短い期間でそれを検討して反映させられるのか。たとえば、もう少し前倒しで募集を開始したり、意見の集まり具合を見て期間を延長するなどの対応は出来ないものなのか。

<事務局回答>

パブリックコメントをやる以上は、いただいた意見に対する回答も行わなければならないし、貴重な意見については、計画に反映できるような形で考えている。

また、スケジュール的なこともあるが、計画の案が出来なければパブリックコメントも出せない。市の規定で期間は一ヶ月と決められていることから、なるべく目に付く場所に設置するなどして、多くの意見をいただけるよう考えていきたいと思う。

<委員質問>

パブリックコメントは、なかなか集まりづらいという話を聞いたことがある。せっかく、今年10月に日本女性会議をやるのなら、その時期に合わせて前倒しに計画を作って発信してはどうか。女性会議をやる意味も含めて、市民の皆さんに広く知ってもらうような機会を作りつつ意見を求めることもでき、市民に広く意識付けをするきっかけにもなると思うし、今まで以上に多くの意見をもらうことに繋がるのではないかと。

<事務局回答>

確かに、今年は女性会議という一つの象徴的な会議を開催するというので、市民の意識を醸成する意味でも非常に大きな取組になると考えている。そこで発信することは、市の男女平等参画の取組はこの計画に基づいて進めているということ、また、

こういう計画自体があるということをお知らせする良い機会になると思う。

たとえば、女性会議の中で苫小牧市にはこういう計画があつて、こういう政策を進めており、今年はその計画の見直しの時期に来ているという、PRの場として使うことも出来ると思う。ただ、大会までの準備となると、素案ができるかどうか難しい面もあるが、そういう計画があるということを含め、出来るだけお知らせをして、ぜひ苫小牧の男女平等参画について広くご意見をくださいということをして大会期間中あるいはその前後も含めてPRをしていきたいと考えている。

また、いただいた御意見をどのように反映させるかということについてだが、計画には基本的に理念だとか骨子の部分載せるもので、その骨子に基づいて我々が政策として予算化し、実際に取組を進めることになる。政策にすぐに反映できる部分については、ご意見をこういう政策に反映させますということで、回答に盛り込むことが出来る。だから、計画の中身というよりは、男女平等参画の取組に対して、これだけの予算を取りますということをして毎年あげていく事で、パブリックコメントの意見をできるだけ反映させるような政策を打っていきたいと考えている。

意見

10年間の計画期間の中で、内容を5年で見直すという話だったが、実はまちなか再生の方で、どうしても5年という期間は長過ぎるので、もう少し短い期間で見直して、これは本当にテコ入れが必要だというときに、すぐにテコ入れが出来るといった条件付けを始めにしておけばよかったというような話を聞いたことがある。実際に、いま走っているので、そういうふうになっているのかと思う。

たとえば年を切らないで、必要に応じてその都度見直して協議できるといったことができれば、パブリックコメントのような何か意見があつたときにも、フレキシブルに対応できるのではないかと思う。

<事務局回答>

出来るだけ、みなさんに分かり易くお示ししていけるよう、進めていきたいと思う。